

《環境より学ぶ意志があればいい》

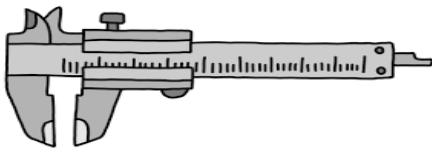
津田 梅子



フライス盤作業の様子(3年実習・総合パート)



旋盤作業の様子(2年実習・旋盤パート)



測定工具 / ギス

コラム

ノギスとは、工作物の外側あるいは内側寸法を目盛り尺とバーニヤ（副尺）を用いて簡単に測る測定工具。日本では、ノギスがなまってノギスとよばれるようになった。バーニヤの名は、副尺を考案してノギスを正確な読取りができる構造にしたフランスの数学者ピエール・バーニヤ Pierre Vernier（1580-1637）に由来する。使用法が簡単なため、機械工場などにおいて広く使用されている。標準M型ノギスはテフス付きノギスともいわれ、高さ、深さの測定もできる。普通用いられているノギスは、本尺の一目盛りが1ミリメートルで、副尺を併用することにより読み取ることでできる最小寸法は0.05ミリメートルである。

機械科の実習では、旋盤、フライス盤、鋳造、溶接、マシニングセンタ等、多くの機械を使い技術を身に付けます。生徒は真剣に実習に取り組み、その内容を報告書にまとめ2日後に提出します。実習作業→内容を振り返る→作業工程や改善点等を書く→提出。このサイクルで3年間実習を進めていきます。そして、卒業前には社会に出ても通用するスキルを身に付けることができます。